

(仮称) 野洲市立病院整備基本計画についての市民懇談会結果概要

1. 日 時 平成 27 年 3 月 7 日 (土) 10 時 00 分～12 時 15 分

2. 場 所 野洲市役所 3 階第 1 委員会室

3. 参加者 15 名

4. 開催趣旨

(仮称) 野洲市立病院整備基本計画策定における第 1 回評価委員会を終えた現在の検討状況の報告とそれに関する市民との意見交換。

5. 市長説明要旨

- 基本計画を策定に至るまで経過説明
- 野洲病院の平成 26 年度実績は、市立病院への期待感や士気が高まっていることで収支が良好となっている、その良好な実績で収入部分の補正をしている。
- 医療機器費、職員給与費、医薬品費や診療材料費など野洲病院の数値を参考にしながら、もっと現実に近い収支計画となるよう、現在、補正の作業を進めている。
- 野洲病院は施設の耐震化が出来ていない、資産がなくて多くの借金がある。それを野洲市が責任をもって整備すれば病院は成立する。年間通院約 10 万人、入院 5 万人、救急搬送 650 人が利用する医療拠点は守っていく必要がある。
- 目指している病院は「病院に行かなくてもいい病院」である（予防医学と在宅医療の強化）。

6. 主な意見

- ・市民の生命・財産を守る最前線が市役所である。財政が破綻するのはダメだが、お金がないから市民の命を守らなくていいということでは我々は税金を払う必要はない。患者や家族の立場からすれば、一刻を争う場合がある。隣町病院があるからといって済まされない。ギリギリのところで命を守る施策を支えてほしい。
- ・一番心配しているのは採算性である。経済が低迷している現在の状況でどうして成立つか疑問である。
- ・市として利用が増えるようなキャンペーンをしたらどうか、最近の野洲病院は良くなっていると感じる。そうした人を増やしていきたい。
- ・野洲市の魅力は自然であり、近隣に大きな病院があるので、規模の小さい野洲に総合病院は必要ないのでは。また、健康福祉センターをもっと充実させたらどうか。
- ・県内の病院では病床稼働率約 60～70%が多いのに対し、95%の稼働率は過大ではないか、また、企業債の発行が前提で、県・国の同意が必要になると思われるが、この収支計画について県・国がどういう反応を示しているのか、更に交付税が算入されず、収支計画が大きく揺らいでくることを心配している。
- ・病院に行かなくていい病院という考え方は賛成である。